



読書の秋

朝夕めっきり涼しくなってきました。先日の保小中合同運動会では保護者のみなさまをはじめ、多くの方々のご協力のおかげで無事成功することができました。改めましてお礼申し上げます。

さて、秋の夜長、読書に最適の季節になってきました。進路決定を間近に控えた3年生にとっては読書どころではないと感じている人も多いかもしれませんが、たまには受験勉強に疲れた心の気分転換に読書をしてはいかがでしょうか。読書は読解力や集中力を育てるだけでなく、心を豊かにするものであると思います。最近の中学生はゲームやインターネットなどで夜遅くまで時間を費やしているという話もニュースなどで耳にします。幸い、本校の生徒たちは毎朝、登校後朝読書に取り組んでおり、読書離れということはあまり感じられないと信じています。

私が若い頃に読んだ本の中に吉川栄治著「新編忠臣蔵」があります。この本を読んで深く感動したことを覚えています。

生徒のみなさんも読み終えた後、感動するような本に出会うことを祈っています。



職場体験を実施しました

9月7、8日の二日間、村内4つの事業所の協力をいただき、無事職場体験を終えることが出来ました。この職場体験は自分の希望する職場を訪問し、そこで働く人たちの仕事を体験する中で、働くことの意義やよろこび、きびしさを学ぶことでした。

2日間お世話になりました。快く職場体験を受け入れていただいた事業所関係の方々ありがとうございました。



JA ショップ



下北山郵便局



下北山温泉きなりの湯



下北山村保育所

職場体験を受け入れていただいた事業所(順不動)

奈良県農業協同組合下北山支店(JA ショップ)

下北山郵便局 下北山村保育所

下北山温泉きなりの湯(下北山スポーツ公園)

本年度の文化祭について(お知らせ)

例年午前から文化祭を実施していますが、本年度の午前中は2コマの授業をし、その後リハーサルをします。したがって文化祭実施は午後1時からとなります。

なお、詳細については先日お配りしました案内をご覧ください。

今年の文化祭は午後1時から実施です。たくさんの方々、見に来て下さいね。



10月の行事予定

- 2日(月)朝礼
- 4日(水)全校給食、生徒スピーチ、PTA 評議委員会(19:30)
- 5日(木)卒業アルバム写真撮影
- 6日(金)校外学習(尾鷲市熊野古道八鬼山)
- 7日(土)英語検定
- 8日(日)卓球部練習試合(檀原中)
- 9日(祝)体育の日
- 11日(水)学力診断テスト、全校給食、生徒スピーチ
- 12日(木)テスト1週間前
- 13日(金)スクールカウンセラー来校
- 18日(水)全校給食
- 19日(木)中間テスト
- 20日(金)中間テスト、諸費集金
- 21日(土)創立記念日
- 25日(水)全校給食、職員講話
- 26日(木)卒業アルバム撮影予備日
- 27日(金)文化祭準備
- 28日(土)文化祭(午後1時から公開予定)
- 30日(月)振替休日
- 31日(火)月末統計



武士と忠義の観念(10月2日校長講話より)

●赤穂浪士の討ち入り

赤穂藩(兵庫県)の浪士47人が江戸・本所松阪町(墨田区両国)の旗本・吉良上野介私邸に討ち入り、吉良の首級をあげたのは1702(元禄15)年12月14日のことでした。前年の3月、江戸詰め赤穂藩主浅野内膳は殿中で吉良上野介に切りかかる刃傷事件をおこし、即日、切腹を命じられました。赤穂浪士たちの討ち入りは、内匠頭だけが一方的に処罰されたことへの抗議の行動でした。

赤穂藩主の切腹後、お家取りつぶしとなって、家老・大石内蔵助らは城下を去りました。しかし、主君の敵討ち(復讐)を誓う決死の47人は、苦心の末、吉良上野介を討って主君の恨みを晴らしました。彼らの処分をめぐって幕府の評定所では「藩主に殉じる忠義」という意見と「幕命を不服とする謀反」とする意見が激しく対立しました。結局、幕府の命令に従わなかった罪は重いとして死罪とされました。しかし、世論を考慮しつつ浪士たちの忠義の心もくんで、斬首から名誉ある切腹に格上げされ、全員自決して果てました。(討ち入り前に1人逐電して実数は46士)。武士はいかにあるべきか、彼らの行動は幕政を揺るがす大問題であったのです。

●「私」を捨て、「公」に尽くす精神

主君の無念を晴らすために命を捨てた赤穂浪士の行動は、豊かさや安逸にふける元禄時代の人々に衝撃をあたえました。武士のきびしい精神性だけでなく、庶民にも忠義の道の尊さを突きつけたからです。主君への忠義を貫いた赤穂浪士47人は「義士」と称えられ、芝居や講談の「忠臣蔵」として長く愛されてきました。しかし、忠義とは単純な忠義心だけを意味していませんでした。もし暗君があらわれて愚かなふるまいをすれば、家臣が座敷牢に閉じ込める「主君押し込め」の慣行もありました。忠義はより大きい公益のためにこそあったのです。

このように忠義とは、自己の属する共同体を守るため、「私」をこえて「公」のために最善を尽くすことを意味します。

自由社 新しい歴史教科書より引用